

第4章 区施設のデザインコード

4-1 デザインコードの組み立て

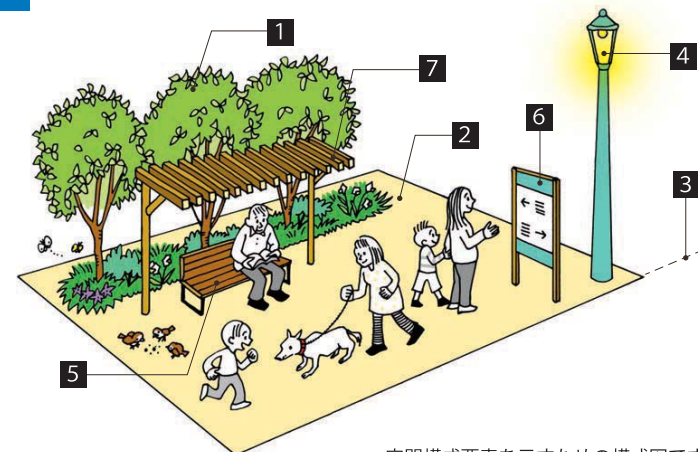
「デザインコード」は、空間を構成する様々な要素について、配置、素材、形状、色彩など、区施設のデザインを方向づけるためのルールです。

「デザインコード」の設定にあたっては、空間を構成する7つの要素を抽出しました。空間構成要素のイメージと具体例は、右に示すとおりです。

各空間構成要素について設定した「デザインコード」は、「デザインコンセプト」から導き出した「6つの視点」と「デザイン方針」に対応しています。

7つの空間構成要素のイメージ

- 1 「植栽」
- 2 「地面」
- 3 「境界」
- 4 「照明」
- 5 「ストリートファニチャー」
- 6 「サイン・看板」
- 7 「工作物など」



空間構成要素を示すための模式図です。

4-2 デザインコードの構成

「6つの視点」と「デザイン方針」

		方針1	方針2	方針3	方針4	方針5	方針6
		自然を感じる空間	人々の集い	街の記憶	街の風景	空間の変化	市民の関わり
7つの空間構成要素	「植栽」	変化に富んだ植栽	環境への配慮		つながりを意識		活動に結びつくみどり
	「地面」		人にやさしい舗装	場所の個性を演出	連続性を感じる素材・色	時間の経過に対応する素材	
	「境界」	エッジを和らげる	一体的なプランニング		街角を演出する		
	「照明」	配光に考慮・工夫	空間の演出		つながりを表現		季節感やイベントの演出
	「ストリートファニチャー」		多様な用途・複合的な用途	線路や電車の記憶			市民との協働
	「サイン・看板」		見え方への配慮	地域の歴史や線路の記憶	つながりを表現	変化に対応するシステム	
	「工作物など」		意匠に配慮（工作物）		つながりを表現		

区施設のデザインコード「植栽」

街路樹／植栽帯／シンボルツリー／植栽樹など

変化に富んだ植栽

- ① 単一の樹種は避け、多様な植栽を心掛ける。
- ② 花や紅葉等、季節の変化を感じさせる樹種を選定する。
- ③ 地被類や低木、中高木など高さの異なる樹種を選定する。
- ④ 地域で親しまれている樹種を選定する。



●生態系や四季の変化、景観に多様性をもたらす様々な植栽をほどこす。



●四季の移ろいを感じさせる草花を配置することで、視覚的な楽しさを演出する。



●さまざまな高さの異なる樹種を配置し、小さなスペースでもボリューム感のあるみどりを創出する。



●地域の方々に親しまれているみどり「ハナカイドウ」。(ゾーンD・E)

植栽 [参考リスト]

中高木

常緑樹 モチ、カシ、ソヨゴ

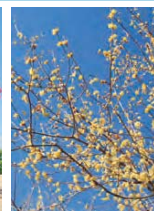
落葉樹 ヤマボウシ、サルスベリ、カイドウ、ロウバイ



ソヨゴ



サルスベリ



ロウバイ

低木など

低木 ツツジ、ヤマブキ、アジサイ、ナンテン、ビヨウヤナギ、ユキヤナギ

グランドカバー ハイビヤクシン、ムラサキシキブ、ヤブラン、ヒメシャガ、アガパンサス



ユキヤナギ



アガパンサス

その他(ツタ類など)

常緑樹 モッコウバラ、テイカカズラ、スイカズラ、アイビー

落葉樹 クレマチス、ナツツタ、フジ



テイカカズラ



クレマチス

環境への配慮

- ① 周辺住宅地へのプライバシー等に配慮した植栽を配置する。
- ② 夏の日差しや熱を和らげる緑陰を配置する。
- ③ 眺望を意識した植栽を配置する。(ゾーンA)



●プライバシーに配慮し、スクリーンとなる植栽により視線を遮断する。



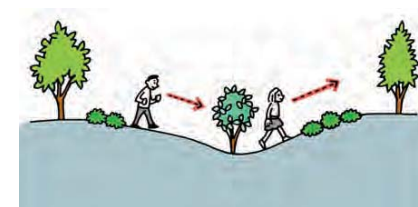
●緑陰による憩いの場を創出する。



●眺望の効く場所では、その魅力を引立てる植栽を用いる。

つながりを意識

- ① 視覚的な連続性を意識したみどりを配置する。
- ② 高低差を活かし、ビューポイントを意識したみどりを配置する。
- ③ 周囲のみどりにつなげて新たなみどりを配置する。
- ④ 周辺地域のまとまったみどりと連携を意識する。(ゾーンA: 代田八幡神社、代田小学校
ゾーンB: 周辺の屋敷林)



●地形の変化を活かしながら、特徴ある樹木を配置することで、視覚的なアクセントとする。



●視覚的な連続性を意識したみどりを配置する。



●周囲のみどりとつながりを意識して植栽を配置する。



●周辺地域に点在するまとまったみどりを意識する。(ゾーンA・B: 屋敷林)

活動に結びつくみどり

- ① 季節に特徴的な活動を促す樹種を工夫する。
- ② 市民との協働により育成管理する範囲を検討する。
- ③ 花壇、プランター等による花づくりの場を設ける。



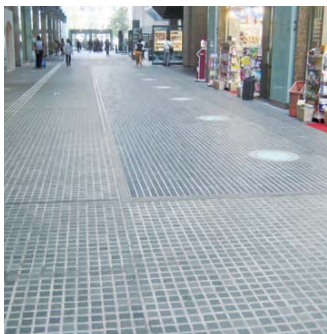
●地域の方とともに草花の植え付けや手入れなどの活動を検討する。

区施設のデザインコード 「地面」

舗装/マンホールなど

連続性を感じる素材・色

- ① 通路については、調和のとれた素材と色彩とする。
- ② 敷地境界にこだわらず、隣接する舗装との一体感を高める。
- ③ 基盤となる舗装材は、多様なプランに馴染み連続性をとりやすい素材とする。



●場所の個性を演出しながら、色調を整えることで空間としての一体感を高める。

●素材・仕上げ・舗装パターンに変化を持たせながら、色調を揃えることで連続性を保持させる。

●マンホールにデザイン性の高い化粧蓋を用い、舗装との一体感を持たせる。

人にやさしい舗装

- ① 平坦で適度な滑り抵抗を備え、膝に負担の少ない歩行性を備える。
- ② 透水性にすぐれ、水に濡れても滑りにくい形状・パターンに配慮する。



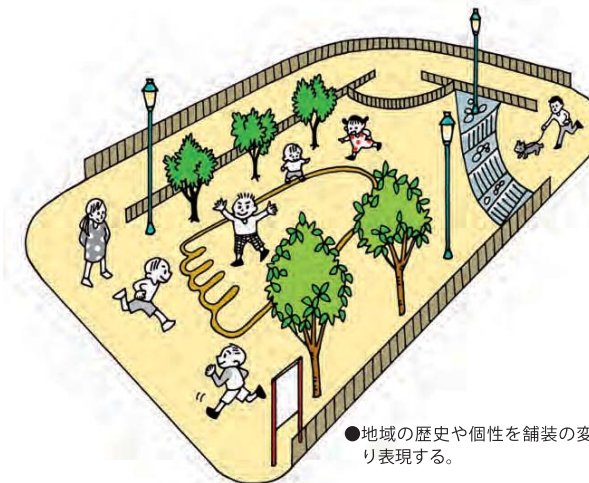
●表面の仕上げにより、雨天でも滑りにくい適度な滑り抵抗を確保する。

●濃灰色の色彩と焼き物の風合いにより、歩く人に落ち着きを感じさせる。

●木質系の素材の柔らかさにより快適な歩行感を提供する。

場所の個性を演出

- ① “たまり” や賑わいなど、場所に応じたパターンを工夫する。
(ゾーンD: 賑わいを演出する広場)
- ② 線路や電車の記憶を思い出す素材や造形を組み込む。
- ③ 地域の歴史を伝える造形を組み込む。
(ゾーンA: ダイダラボッチ)



●地域の歴史や個性を舗装の変化により表現する。



●舗装に変化をつけることで、周辺とは異なる場を生み出す。



●かつて鉄道敷だった記憶を彷彿とさせる線路を象った舗装パターンを用いる。



●落ち着いた憩いの場には、周囲と異なる舗装材を活用する。

時間の経過に対応する素材

- ① 長期間の使用に対する耐久性が高く、風合いが保たれるような素材を用いる。
- ② メンテナンスが容易で、美観が損なわれないような素材や色彩に配慮する。



●自然素材や焼成材の使用により、時間が経つにつれて風合いが増すことに意識する。



●補修の際に新材と旧材の馴染みが良くなるような配慮が必要である。



●汚れがつきやすく目立つ素材は、場所を限定して用いる。

区施設のデザインコード 「境界」

通路際／街角／敷地境界など

エッジを和らげる

- ① 植栽等を用いて、エッジを和らげるよう工夫する。
- ② 直線的な境界が単調にならないよう配慮する。



●植栽を効果的に活用し、舗装との境界を柔らかな印象とする。



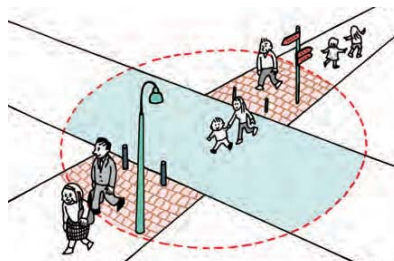
●植栽帯の設えを通路に取込み、舗装が単調にならないように工夫する。



●縁石に曲線的な配置を織り交ぜ、直線的な通路のエッジを和らげる。

街角を演出する

- ① アクセントとなる舗装等による演出により、街角の演出に努める。
- ② 交差部は、上部空間のエントランスとなるため、ゲート性を持たせるなど、魅力ある空間の創出に努める。
(結節点：ゾーンB～C間、ゾーンC～D間)



●街角の表情を豊かに演出する。



●舗装の変化によるアクセントで、ポイントとなる場所を強調する。



●交差部付近の舗装の種類を変えることで、エントランス空間を創出する。



●交差部のサインによりゲート性を持たせることで、歩行者を通路へと導く。

一体的なプランニング

- ① 隣接する公共空間は、一体的に計画し、柔軟なプランとする。
- ② 境界は、周辺の設えに馴染ませる。



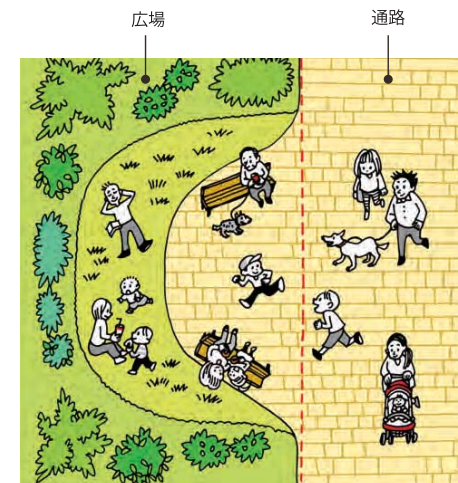
●境界を挟んで空地を共有することで、一体的に利用可能な空間を創出する。



●隣接する公共空間を一体的に利用し、植栽の配置も総合的に検討する。



●歩道と一体的に計画されたベンチのスペースにより、憩いの空間を創出する。



●緑地・小広場においては、空間全体の使われ方に配慮し、それぞれの敷地境界にとらわれず柔軟にプランを考えることが望ましい。



●境界部分の排水溝をできる限りスリムにし、目立たないように工夫する。



●排水溝に自然素材を用いることで、隣接した植栽帯に馴染ませる。

区施設のデザインコード 「照明」

街路灯／足元灯／庭園灯／イルミネーションなど

つながりを表現

- ① 暖かみを感じさせる色調を主体とし、連続性のある空間を創出する。
(主にLEDを用いる)
- ② 灯具は調和のとれたデザインを用い、一体感を持たせる。
- ③ 灯具の色彩は鉄道を意識させる色(暗灰色～黒色)とする。



●灯具は、全体にわたって調和の取れたデザインを用いる。



●暖かみのある光をつなげていくことで、落ち着いた雰囲気演出する。



●演色性の高い暖かみのある光源を用いることで、落ち着きと安らぎを演出する。

配光に考慮・工夫

- ① 隣接する地域へ配慮し、光害にならないように留意する。
- ② 樹木等を照らす演出により、街の魅力を際立たせる。



●隣接する地域への配慮が必要な場所では、光源の間隔などにも留意しながら工夫する。



●足元灯により、落ち着きのある歩行空間を創出する。



●植栽への効果的なライトアップにより、空間にアクセントを与える。

空間の演出

- ① 人々の集いや時間帯に応じたメリハリのある空間を演出する。
- ② 周辺の街との結節点では、ゲート性を持たせるなどの視覚的な演出を工夫する。



●設置場所や機能を踏まえ、周辺の街並みにも配慮した照明を用いる。



●広場を演出するような照明になるよう工夫する。



●地域性を考慮した意匠と配置の工夫により、ゲート性を感じさせる空間を創出する。

季節感やイベントの演出

- ① 季節に応じた演出やイベント時の使われ方などを想定した工夫を取り入れる。
(ゾーンD: 街の賑わいを演出)



●広場などでは、年中行事に合わせて照明を活用できる設備があるとよい。



●光により、季節に応じた演出を楽しむ工夫を検討する。



●イベント時に手作りの灯りを用いるなど、効果的な演出を心掛ける。

区施設のデザインコード 「ストリートファニチャー」 ベンチ/テーブル/車止めなど

多様な用途・複合的な用途

- ① 場所に応じた機能的なベンチを配置する。
- ② 機能の併用により、広がりをも有効活用する。
- ③ ちょっとした気遣いのあるデザインを心がける。



●空間に余裕のない場所では、コンパクトに納め軽快なデザインを用いる。



●植栽樹を取り囲むベンチにより、植栽の保護と緑陰効果をもたらす。



●ちょっとした休憩に使えるように、柵とベンチの機能を併用させる。

線路や電車の記憶

- ① レールや枕木などの部材を再利用するなど、線路や電車の記憶をデザインに取り入れるよう工夫する。



●レールを素材の一部に活用し、鉄道との関係を印象づける。



●車止めにも地域の歴史に通じるようなストーリーを持たせる。

市民との協働

- ① 市民による日常的な維持管理の可能性を検討する。
- ② 市民の創作活動につながる工夫を検討する。



●市民が活用できる掲示板を検討する。



●ストリートファニチャーの市民による日常的な維持管理について検討する。



●街の個性に合わせ、創造性豊かなストリートファニチャーも検討する。

区施設のデザインコード 「サイン・看板」 総合案内板/施設案内板/地名表示板など

つながりを表現

- ① 共通の素材・デザインで連続感を持たせる。
- ② 表示する情報（文字やマークなど）に共通性を持たせる。
- ③ 各施設のサインを連携させて誘導・案内を行う。
- ④ 周辺の公共施設など、地域とのつながりを意識する。



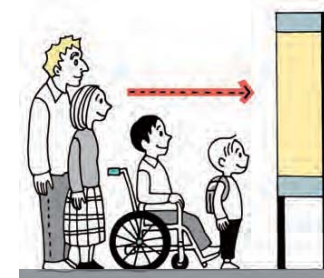
●エリア内のサインデザインをそろえることで、認知性を高め、整然とした印象を与える。



●主要な結節点にサインを設置することで、周辺地域との往来を誘導する。

見え方への配慮

- ① 適切な規模で、見やすい範囲に設置する。
- ② 歩行者の視線を大切にサインを配置する。
- ③ 板面の共有や総合化により、整然と表示する。



●利用者が情報を認識しやすく、視線を遮らない位置・大きさとする。



●異なる目的の表示を一つのサインにまとめ、利便性と景観面の向上につなげる。

地域の歴史や線路の記憶

- ① レールなど、線路や電車に関係する再利用品などを活用する。
- ② 線路や電車をモチーフにしたデザインを取り入れる。
- ③ 地域の歴史や線路の記憶を表示に取り入れる。



●駅名表示版を模したサイン等により、利用者に公園のコンセプトを伝える。



●地域の歴史や記憶を来訪者に伝えるためには、サインによる表示を活用する。

変化に対応するシステム

- ① 更新しやすいディテールとする。



●更新を容易にするため、汎用性の高い素材や交換しやすい部品の使用に努める。

区施設のデザインコード 「工作物など」 バスストップ/パーゴラ/倉庫/転落防止柵など

意匠に配慮(工作物)

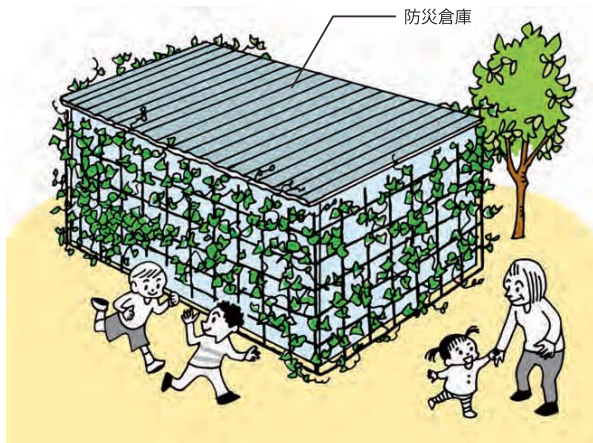
- ① シンプルですっきりとした形状とするなど、周辺との調和を図る。
- ② 人の目に触れる工作物については、意匠性に配慮するとともに適切に配置する。



●空間全体の魅力を引き立てる個性豊かなバス停となるよう配慮する。



●パーゴラは周辺の景観に馴染むように配慮する。



●防災倉庫は、植栽などで修景する。

つながりを表現

- ① 共通のテーマでそろえることで一体感のある空間を演出する。
- ② 線路や電車の記憶をデザインに取り入れるよう工夫する。



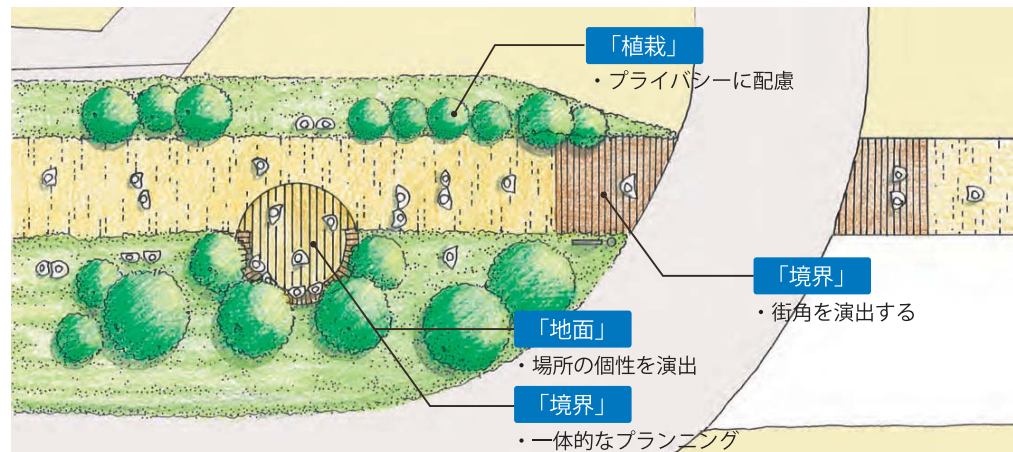
●デザインの原則を共有し、空間の連続性を意識できるよう配慮する。



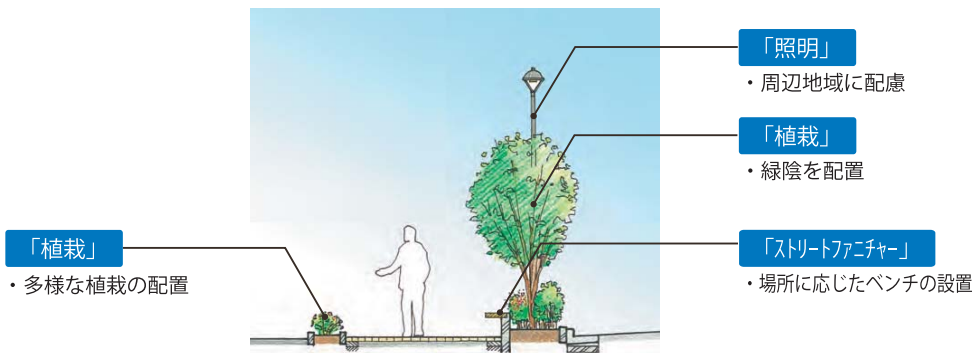
●レールを柵の一部に用いるなど、スマートなデザインに仕上げる。

(参考) デザインコードを踏まえた区施設のイメージ

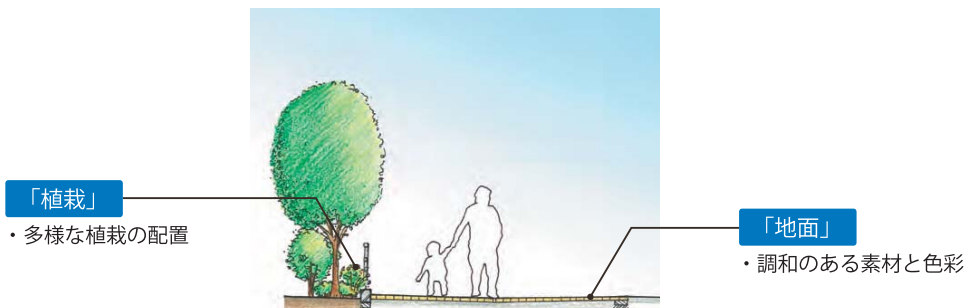
空間を構成する様々な要素について、「デザインコード」を踏まえた区施設の具体的なイメージを図示しています。



■ ゾーンC (鎌倉通り付近~下北沢駅)



■ ゾーンA (世田谷代田駅西側)



■ ゾーンD (茶沢通り付近)